



地域のみなさま、企業・事業所のみなさまへ

医療と介護のおきがる座談会

地元の医師や訪問看護師、病院の医療ソーシャルワーカー、
ケアマネジャーなど、医療と介護のプロフェッショナルがお話しします！

セミナー例

「知っておきませんか、在宅医療・介護」 ～自宅での療養生活のイメージ

自身や家族に医療や介護が必要となった時、事前に在宅医療・介護の知識を得ておくことは大切です。サービスの種類や利用方法、相談窓口について紹介します。

「上手な医療のかかり方」 ～かかりつけ医を持つメリットとは

病院や診療所にも、それぞれ専門性や機能があることを知っていますか。
上手な医療のかかり方についてお話しします。

「考えてみませんか、これからの治療・ケア」 ～望む看取り・看取られ方について

命の危険が迫った状態では、約3/4の方が治療やケアについて自分で決めたり、人に伝えることができなくなると言われています。もしもに備え、「人生会議」してみませんか。

「働き続けるための医療と介護のカタチ」 ～介護は突然やってくる

家族の介護のために退職する方が増えています。介護離職は家庭の収入減だけでなく、企業にも大きな損失です。今どきの在宅医療や介護について学んでみませんか。

■対象者：地域のグループ（地域の茶の間、自治会など）や市内企業・事業所など

■時間：土日・祝日を除く午前9時～（おおむね45分間程度の内容です）

■費用：無料

■申し込み方法と開催までの流れ

- ①裏面の申込書に必要事項を記入のうえFAX・郵便または電話にて、
「新潟市在宅医療・介護連携センター」にお申し込みください
- ②開催日時や内容など打ち合わせるため、担当者が連絡します
- ③当日、ご指定の会場へ講師・担当者が伺います

※会場は申込団体が活動する場所や事業所で行わせていただきます



【お申し込み・お問い合わせ先】

新潟市在宅医療・介護連携センター ☎025-240-4135



在宅医療・介護連携センター 行
FAX 025-247-8856

申込日 年 月 日

(地域向け)医療と介護のおきがる座談会
(企業・事業所向け)医療と介護の出前セミナー 申込書

| | |
|----------------|--|
| 申込者氏名 (団体名) | 団体名： ご担当者： |
| 連絡先電話番号 | |
| 希望日時 | 第一希望： 年 月 日() : ~ : 第二希望： 年 月 日() : ~ : |
| 会場 | 会場名： 住所：新潟市 区 |
| 希望内容・テーマ | |
| 参加人数 | 人(予定) |
| 会場設備 | ・ビデオ・DVD・マイク・黒板(白板)・演台 ・プロジェクター・スクリーン・延長コード |
| 講座形式 | ・教室型(机・椅子) ・畳(座机) ・その他() |
| 駐車場の有無 | ・有(約 台分) ・無 |

- ・お申し込みは、FAX・郵送のほか窓口でも受け付けます。
- ・この申込書は、講座実施以外の目的には使用いたしません。

【お申し込み先】新潟市在宅医療・介護連携センター(新潟市総合保健医療センター5F)
〒950-0914 新潟市中央区紫竹山3丁目3番11号
電話 025-240-4135(直通) FAX 025-247-8856
メール renkei-center@med.email.ne.jp



小・中学生、高校生向け 「医療・介護の出前学習」のご案内 ～医療や介護について、今から学ぼう！

H30年度実施風景（中央区内小学校）



～出前学習実施例～

小学生「総合学習」

医師や訪問看護師、介護ヘルパー等の専門職が講師となって、仕事の話の聞いたり、職業体験を行ってもらいます。

中学生「キャリア教育」

専門職が講師となって、仕事内容や活躍している場の紹介、患者・利用者の状態などについて話をします。

「文化祭等の学校行事」

専門職が講師となって、個別ブースを設置し、セミナー形式や個別相談形式などにより各職種の紹介をします。

「PTA学年行事」

専門職が講師となって、親子で医療・介護・福祉について職業体験なども交え、学んでいただくことができます。

※このほかにもさまざまな形態で実施できますのでご相談ください！

- 対象 新潟市内の小学校、中学校、高等学校
- 会場 各学校にて指定いただいた場所
- 申込み 裏面の申込み用紙にて、希望日の2か月前までにお申し込みください
- 問い合わせ先 新潟市保健衛生部地域医療推進課
TEL 025-212-8018 FAX 025-246-5672
メール chiiki.iryu@city.niigata.lg.jp



新潟市地域医療推進課 行 (FAX025-246-5672)

小・中学生、高校生向け「医療・介護の出前学習」申込書

申込日： 年 月 日

| | | | | | | |
|----------|------|---|-----|---|---|---|
| 学校名 | | | | | | |
| 学校の所在地 | | | | | | |
| 連絡先 | 電話 | | FAX | | | |
| 担当者名 | | | | | | |
| 受講学年・人数 | 学年 | | 人数 | | | |
| 希望日時 | 第1希望 | 月 | 日 | : | ~ | : |
| | 第2希望 | 月 | 日 | : | ~ | : |
| | 第3希望 | 月 | 日 | : | ~ | : |
| 希望日時・テーマ | | | | | | |
| 受講目的 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

- ・お申し込みは、FAX・郵送のほかメールでも受け付けます。
- ・この申込書は、講座実施以外の目的には使用いたしません。

【お申し込み先】新潟市保健衛生部地域医療推進課（新潟市総合保健医療センター2F）
〒950-0914 新潟市中央区紫竹山3丁目3番11号
電話 025-212-8018（直通） FAX 025-246-5672
メール chiiki.iryo@city.niigata.lg.jp

未来を担う世代が
医療・介護を学校授業で学ぶ

医療・介護の 出前学習

9月19日、新潟市立沼垂小学校6年生を対象に実施された「医療・介護の出前学習」では、約90名の生徒が授業を受けました。これは新潟市の地域医療推進課が行う取り組みの一つで、地域の医師・看護師・薬剤師・社会福祉士などが講師となり、医療・介護の仕事、そして医療・介護が必要になった時の基礎知識、いのちをテーマとした話や職業体験などを行うもの。今回は、同市西区の済生会新潟第二病院のスタッフが出前学習に訪れました。

様々な「体験」が盛り込まれた 充実のプログラムを実施

講演と数種類の体験コーナーで構成された1時間半のプログラムを、教チームに分かれてローテーションしながら体験。聴診器・血圧計・車椅子・AED体験のほか、妊婦疑似体験や本物の救急車に触れ、救急医療の現状について学ぶコーナーもありました。



お仕事の種類説明や「いのちの授業」も

医療・介護にはどのような仕事があるのか、高齢化が進む日本でどのような医療・介護が求められるのか、モニターを使っての講演。さらに、生命が誕生してから出産するまでを動画で紹介し、命の尊さを学ぶ「いのちの授業」でも、生徒たちは熱心に聞き入っていました。



体験コーナーごとに病院スタッフが講話を行います。生徒たちはとっても真剣！



血圧計・聴診器の使い方もバッチリ

はかってもらう事はあっても、はかる側は初めて。本物の聴診器や血圧計で使い方を学びます。聴診器体験では、本当に心臓の音が聴こえてきて感激する生徒も。



車椅子も体験。実際に乗ってみると、患者さんの目線や視界も理解できます。車椅子を押す側は、患者さんが安心して乗っていただけるよう配慮が必要です。

様々な企業や団体に勤める方々が小・中学校や高校に出向き、社会人講師として特別に行う授業「出前学習」。「出前授業」「出張授業」とも呼ばれ、いま全国で盛んに実施されているプログラムです。特集IIでは、新潟市内で行われた「医療・介護の出前学習」をレポートします。

これでもしもの時も慌てない！ AED & 心肺蘇生



AEDの使い方、心肺蘇生の方法を勉強します。心臓マッサージは「強く・早く・絶え間なく」がポイント。実際にやってみたら、意外に体力がいることを実感したようです。

赤ちゃんだっこ・妊婦疑似体験も貴重な学びに

妊婦ジャケットを身につけて、言葉だけではなかなか理解しにくい妊婦さんの大変さも体験。いたわりの気持ち、男女で助け合うことの大切さも学べました。



本物の救急車に触れて体験

救急車のお仕事授業&体験コーナーでは、小学校前に本物の救急車が登場。備え付けの医療機器やストレッチャーを前に、熱心に説明を聞いていました。初めて救急車の運転席に乗った生徒は、クラクションを鳴らしてみたり赤色灯を付けたり興味津々。



未来を担う子ども達に医療・介護とはどんな仕事なのかを肌で感じてもらおうべく、現役の医療スタッフが分かりやすく説明し、実際に体験する場となった今回の出前学習。病院見学ではなく、医療スタッフが学校へ出向くこのスタイルは、より多くの子どもたちに医療・介護を知ってもらう機会となります。さらに、現在の医療介護の現状や課題、命の大切さについてもより身近に感じてもらえたのではないのでしょうか。